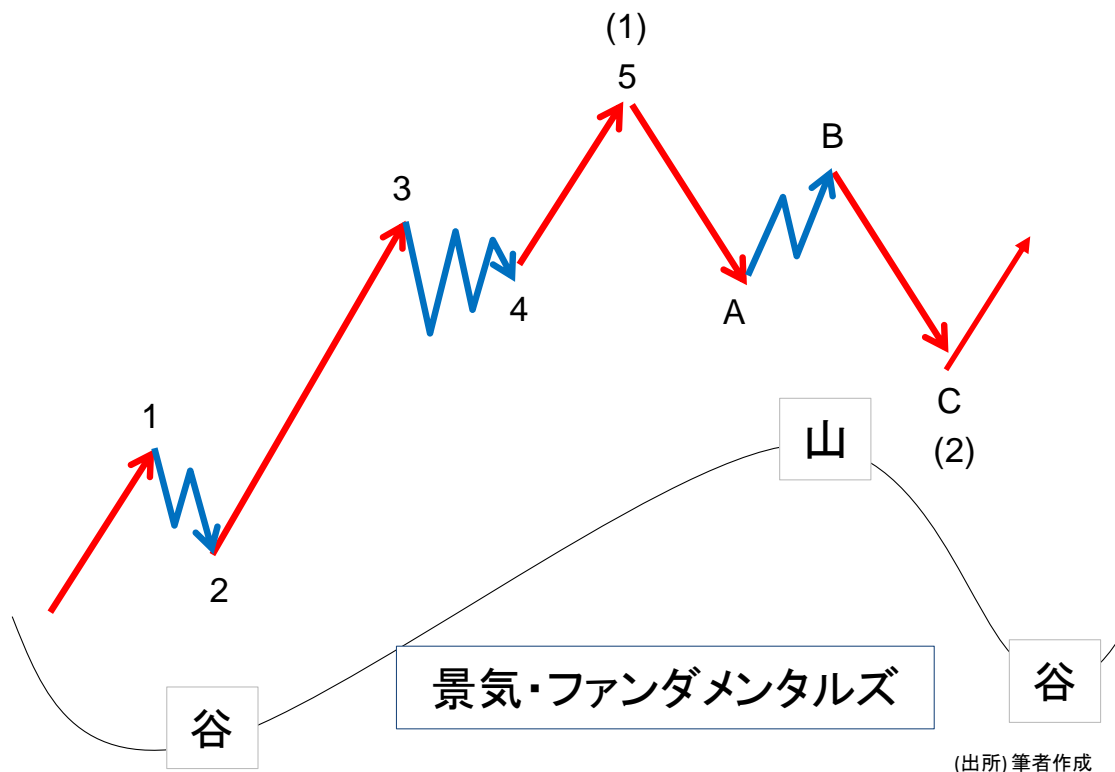


# 宮田直彦のエリオット波動レポート

## マンスリー・フォーカス

### 【米ドル/円】

今月(22年3月)の米ドル/円は記録的な上昇となり、超大型の強気パターンから上放れを開始しました。いわゆる「黒田ライン」の突破も時間の問題でしょう。米ドル/円の次のターゲットとしては135.220円(02年1月)があげられます。

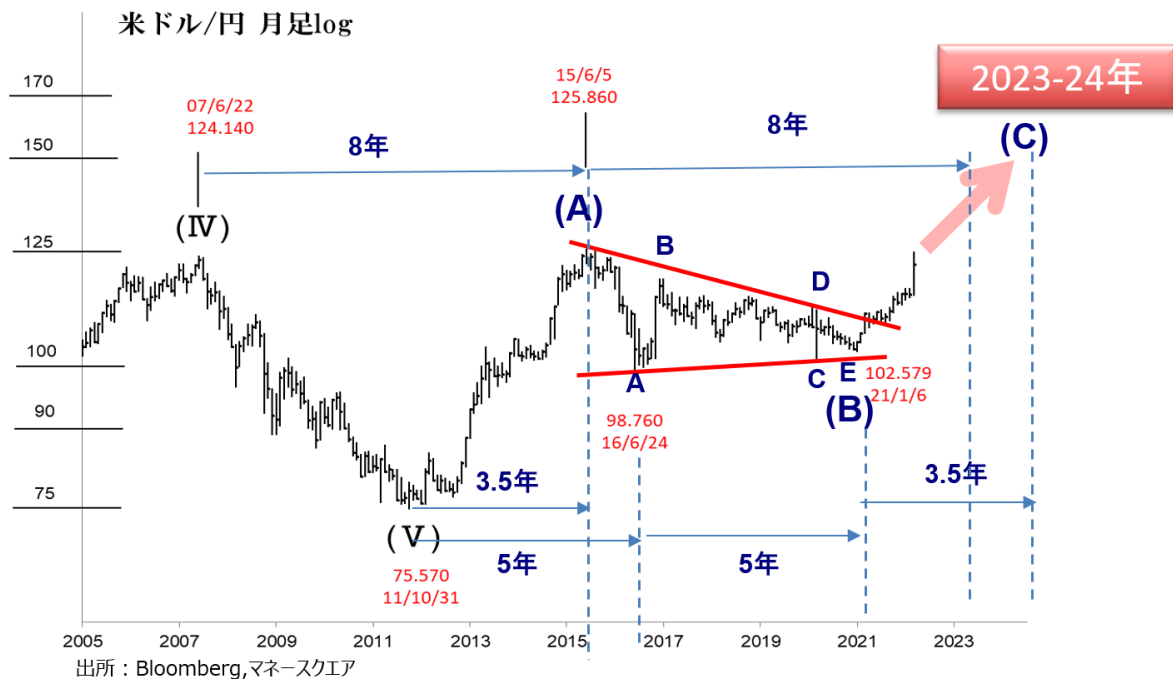


エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波(合計8つの波)で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。



### 3月の米ドル/円は記録的な上昇に

円相場は今月28日に6年7カ月ぶりに一時1ドル＝125円台に乗せ、この時点で2月末の水準(114.936円)に比べ10円以上も米ドル高・円安が進みました。2017年から2020年までの4年間は、「年間を通じての値幅」が10円程度だったことから、今月の米ドル/円がいかに記録的なものだったかわかります。

### 「黒田ライン」突破は時間の問題

米ドル/円はいよいよ15年6月の125.860円を試す局面です。さすがに今月の上昇ピッチが4月以降も続くとは考えづらいですが、それでも125.860円ブレイクは時間の問題でしょう。

そもそも1ドル＝125円近辺は、市場関係者やメディアから「黒田ライン」とされ、注目度が高い水準です。15年6月に黒田日銀総裁が、「実質実効為替レートがさらに円安方向に振れていくことは、普通に考えるとなかなかありそうにない」と発言し、その時点における名目円レート水準(1ドル＝125円近辺)が、ある種の防衛ラインであるかのように受け止められています。

もちろん、変動相場制の下で中央銀行総裁が特定の名目レートを示唆することはあり得ません(そんなことをすれば為替操作国のレッテルが貼られてしまいます)。実際のところ、黒田総裁が発言したのは実質実効為替レートについてであり、名目レートではありません。

とはいえ、直近でメディアは(現実には存在しない)さかんに黒田ラインを取り上げており—ことさらに「悪い円安」の可能性を指摘する記事が目立つようですが—125.860円という水準は「ポイント・オブ・レコグニション」として一段と存在感を強めています。

将来的に「悪い円安」を招くかそうでないかは一円安にはデフレ脱却につながるメリット面もあることを忘れてはならないでしょう—相当の時間が経ってみないことには何ともいえません。当たり前の話ですが、エリオット波動が示すものは事のよし悪しではなく、相場の方向性です。そしてエリオット波動に基づくと、この先も円安トレンドは続く可能性は高いとみられるのです。

### 逆ヘッド・アンド・ショルダーズから上放れた米ドル/円一次は 135 円台を目指す?!

今月は米ドル/円の長期チャートに特筆すべき動きがみられました。90年4月(160.360円)以来32年にわたるネックラインを明確にブレイクし、超大型の逆ヘッド・アンド・ショルダーズから上放れを開始したのです。今後125.860円をブレイクした暁には、米ドル/円のターゲットは135.220円(02年1月)に一気に引き上がることになります。

### 個人投資家は円買い越し—今後は円売り姿勢へ転換も

なお3月28日のブルームバーグ記事は、「日本の個人投資家が円の上昇を見込んだポジションを過去最大規模に膨らませている。円の先安観が強まる市場で、逆行した動きを見せている」と伝えています。同記事によると、個人投資家の14通貨に対する円の買い越し額が3月第3週(3/21-25)に計2580億円(21億ドル)とデータがさかのぼれる2006年以降の最大になり、そして円買い越しの大半はドルとユーロに対してのもの、ということです。

この先125.860円のブレイクは、日本の個人投資家を、かつて主流だった米ドル買い・円売り姿勢に回帰させる、大きなきっかけになるかもしれません。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

## 当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

-----  
金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会  
株式会社マネースクエア

-----